**この、演習１・２のシートは、リーフレットを活用して研修を展開していく際の流れを、例として示してあります。「※印」で書き込んである部分は、研修を担う先生への補助説明です。学校の実態や研修内容に照らし合わせながら、ご活用ください。**

【演習１】

（ねらい）

障害がある人の日常生活を送る上での困難さを**自分の事としてイメージしながら**、自分の力を発揮するための適切な支援が、困難さの軽減につながる事を理解する。

（演習１－①）

もし、あなたが（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）時、どのような困難さが想定されますか？

　　　※障害の特性や場所、状況、対象年齢は、研修の内容によって設定してください。

例　（聴覚に障害があり、ショッピングモールに出かけた）時　など

(演習１－②)

　　困った事に対して、あなたはどのような支援があると、困難さが軽減できますか？

(演習１－③)

　　演習１－①、演習１－②について、共有しましょう。

【演習２】

（ねらい）

クラスや日常生活の中で、自分が気になる子ども（障害特性が背景にあると思われる子ども）をイメージし、何に困っているか、どのような支援をする事がその子どもの力を発揮する事に繋がるか考え、困っている子ども達の理解や支援の視点を広げる。

（演習２－①）

　　担任をしている（または、学年にいる）　気になる子ども（障害特性が背景にあると思われる子ども）を想像した時、その子どものどのようなところが気になりますか？

(講義１)

　　　　※リーフレットVol.1の８つの障害種について説明し、気になっていることは何なのかの参考にします。

（演習２－②）

　　演習２－①で想像した子どもはどのような事に困っていますか？子どもの視点に立って考えてみましょう。

※障害特性があり、みんなと同じようにやりたくてもできない、困っている子どもというところに視点を向けます。（日常生活場面、集団活動場面、学習場面　など）

(講義２)

　　　　※障害特性や支援内容をさらに深める資料を用意し、説明します。

（演習２－③）

　　演習２－②で想像した子どもに対して、どのような支援があると子どもの力が発揮できるようになるでしょうか？

　※具体的な支援の策を考えます。日常生活場面、集団活動場面、学習場面　など

(演習２－④)

　　子どもが困っている事への支援策について共有しましょう。